

あの頃の

思い出

▶17◀

吹奏楽部

私の音楽活動の原点といえる最大の出来事。それは秋田高校吹奏楽部との出会いとさまざまな出来事です。これまで出会った先生や仲間との思い出と共に振り返りながら紹介します。

私が音楽と出会ったのは幼稚園でのオルガンと小学校で習ったピアノでした。練習が嫌で2年続けて同じ曲を弾くくらいサボってばかり。授業（必修クラブ）の器楽クラブで、スネアドラムを自己流でやっていました。中学校に入学して、さまざまな部活を見学する前に、いきなり器楽クラブの先輩に吹奏楽部に入部させられた私は、すぐ打楽器を担当。当時の秋田市立高清水中学校は編成が小さく、たくさんの打楽器を掛け持ちしました。ところが2年生になって急ぎょチューバにコンバート。楽器が向いていたのか、部の中心になって、3年で部長を拝命。中学卒業後は、ついに秋田高校に進学。あこがれの高校生活は驚きの連続でした。まず制服着用の義務のない自由。恐るべき応援練習。秀才ぞろいのクラスメイト。学級対抗。感動の合唱コンクール。もちろん部活動は

最強の仲間と最高の演奏を

佐藤 正人 昭和53年卒

「音楽と吹奏楽が命」の私は吹奏楽部へ。

そして、その後の人生を大きく変える運命の日が訪れます。仮入部から担当楽器が決まり次々と新入生が正式入部。当然私はチューバのつもりでしたが、なんと新入生に当時全国大会クラスの中学からチューバが3人集合。弱小、高清水中学校の私は、またしても担当楽器をコンバートすることに。吹奏楽部部長の谷口先輩から「正人、クラリネットに来てくれ！」の一言で初めてクラリネットを担当することになりました。これがきっかけで私の音楽人生が決定するとは思いませんでした。

尊敬する恩師との出会い

旋律を演奏できる楽器になって、私はうれしくて、全力で練習して、結構短期間で合奏に参加できるよう



になったと思います。そして、もう一人人生を変えたのは、今でも尊敬する故伊藤吉雄先生との出会いです。先生の指揮はカッコいい、コントラバスもうまい、アレンジもする、音楽の授業はいろいろなジャンルを教

えてくれる楽しく憧れの先生でした。当時全国大会に何度も出場していた秋田市立山王中学校の木内博先生、秋田南高校の高橋絃一先生と並んで秋田の吹奏楽を牽引していました。伊藤先生は度々遠くから私が練習

している姿を見ていらつしやいました。一言も声はかけられませんでした。一言も声はかけられませんでした。吹奏楽の指導に携わっている今、木管、金管、打楽器をそれぞれ基礎から経験したのは大きく役立っています。

私が初めてクラリネットで演奏した曲は、今はなき、八橋の野外音楽堂での中央地区納涼演奏会でのAリード編曲、グリーンズスリーブス(2nd C1a担当)だったと思います。前年、東北大会へ出場した秋高は旧秋田県会館でのトップコンサー

ト(写真)へ出場し、私は初のホールデビュー。そして吹奏楽部に入って最初の定期演奏会は、感動の連続でした。クラシックスステージは、マーチやワルツから名曲シエラザードまで、抜群のノリでポップスやビッグバンド、幕間の合唱「ドイツ学生歌」や「いざ立て戦人よ」など、日本中の合唱団が歌っている先輩方のプログラムや抜群の企画力と演奏。そして参加している自分にはほんとに幸せでした。この経験は今も生きています。

この年の秋高のコンクールは課題曲、小林徹作曲「吹奏楽のための練習曲」、そして自由曲はB、グリテンの名曲「パーセルの主題による変奏とフーガ」を伊藤吉雄先生が編曲して、東北大会に出場。特に秋田県大会の演奏は、割れんばかりの拍手と「ブラヴォー」の歓声が忘れられません。50年たった2025年の吹奏楽コンクールで私の指揮をする川越奏和奏友会吹奏楽団がこの曲を自由曲として取り上げ、全国大会で金賞を受賞できたことも感慨深いです。

普段話さない父親に感謝

このころからレコード、FM放送などでクラシックスを聴きまくり、吹奏楽の演奏も集めまくっていました。クラリネットの練習はもちろん、どんな音楽の道へ引き込まれていきます。この時「好きなクラシックスの曲を吹奏楽で演奏したいなあ」と思い始めて、独学で管弦楽法を勉強し、アレンジを始めました。部活と音楽に熱中するあまり、授業中に編曲をしていて怒られたり、成績はど



楽トッスコンサート